

経産省第4次産業革命
スキル取得認定講座に
10月認定決定！

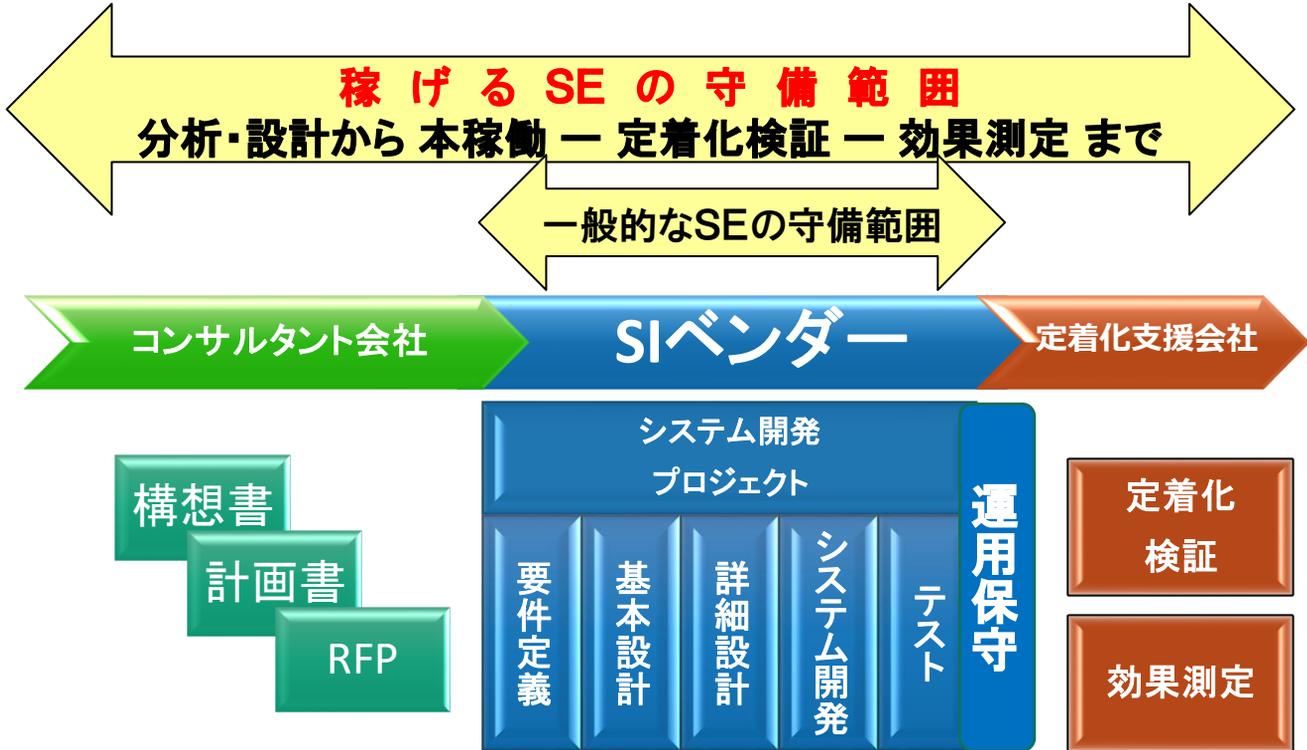
第34回 稼げるSE養成講座

「もう御用聞きSEとは言わせない！コンサルSE育成」

受講対象者 (実務経験3年以上のSE、及び幹部社員。)

- ①「御用聞きSE」では、工数ばかり掛かって、顧客満足は、得られないと感じている方
- ②DX推進のため、新たにERPを選択しても、顧客の問題は解決されないと感じてる方
- ③顧客要望が、間違っていると感じるが、「正しい仕組」をご提案できないと感じている方

本プログラムが実現する「稼げるSE業務」とは



日時 : 2022年 6月 27日 ~ 2022年 10月 3日
毎週月曜日 全12回 13:00~17:00 (別添のカリキュラムを御参照下さい。)

受講形態 : ZOOM採用 (定員10名 限定)
マンツーマンの塾運営を目指しています。(卒業生300名以上)
「やる気」のある受講者には、習得されるまで、「補講」を続けます。(補講は無償です)

受講料 : 15万円(税別)／人 (10月募集から、25万円に改定されます)
(経産省「第4次産業革命スキル習得講座」に10月募集分から適応されます。受講料も25万円に改訂されます。今回は旧価格の15万円での募集です。)

申込締切日 : 2022年 6月20日(月曜日)

【本講座の特徴】 オンライン同時双方向型セミナー

「実際原価」は
ウソの原価です
！



では、「真の原価」
は、どのようにして
求めるのですか？

毎回演習で受講者が抱える課題を解決

2000社共通の問題点を、演習で解決。
受講者が抱えるBPR課題を演習で解決。

受講者の会社名は非公開

・躊躇なく、何でも質問・相談できる

聞きのがした講義はいつでも視聴可能

・聞きのがした講義は、ホームページから再生可能

ライブで質疑！ライブで演習の進捗指導！

講義中に課題の進捗をチェックし お声を掛けます。

質問シートは、あなたの一生のメモ

質問履歴、回答履歴は永久検索
受講後もBPR構築の質問・助言を受け記録できます。

あなたの表情をモニタリングします

あなたの表情から講師が問いかけます。
(モニタリング係があなたの表情を読みサポートします)

受講者の熱意にお応えします！

- ・希望者への毎回予習、復習の実施。
- ・受講者の希望に応じ休日・深夜でも補講対応します。
落ちこぼれZERO！

「管理技術」でDXに必要な基準・標準化は、容易に指導できる！ —標準化の「実習」が大人気—（下記の一つを選択）

作業標準の設定

工程管理の基本である作業標準・標準時間の設定を作業分析ソフトを使用して特定品目の設定を演習します。

ロケーションの設定

保管管理が不備では在庫管理は出来ない。御社の倉庫を対象にロケーションを演習で設定します。

原価チャージの設定

「時間当たり単価」の設定が出来てない企業が多くなっています。御社のチャージ(賃率)設定の演習をします。

部品表(BOM)の設定

部品表は、生産管理の要！でも作成方法が分からない、難しいと考えている方に御社の製品を基に演習をします。

「受講者の声」

中堅ITベンダ(東京) SE課長

先生の皆さんは「御用聞きSE」との指摘は当初は反感を持ちましたが、20年間の経験を顧みますと、ご指摘通りで反省しました。確かに顧客様のご要望には間違いが多くあり管理技術でのご提案に確信が持てました。

大手ITベンダ(名古屋)SE課長

月曜日に受講し火曜日に「課題の提出」は、きつく、最初は脱落しそうになりました。予習の重要さと受講時の姿勢のご指導を受け「正しい方法手順」で受講する事により当日中の「課題提出」が容易に出来ました。「間違ったことを懸命にやる」事の問題を実感出来、管理技術の正しい方法手順を顧客にご提案する事の使命を認識出来ました

稼げるSE養成講座

「もうご用聞きSEとは言わせない！コンサルSE育成」

教材

- (講義)①業務知識編：「管理技術」の前に、「業務知識」を習得頂きます。業務・組織形態から、一般企業の歴史を学び、その知識から顧客のレベルが判断できます
- ②原理原則編：管理技術を体系化し、検証された技術のみ網羅されたTEXTで、顧客の課題解決のノウハウ集です

(事例)学習ライブラリ：有償版ですが、受講期間中は使用できます。座学では理解しづらい項目について、受講者が実際の数値を入力し結果を検証できるようになっています。

「実習」参加者は、必要に応じて「作業分析ソフト」等の、実習に必要な機材・ソフトの貸与があります。

A. BPRの成功は、SEの基準・標準化の顧客への正しい指導により実現される！

基準・標準化の体得

- ①作業標準・標準時間の設定
製造業・土木建築業・農業他、人が動き成果物を生み出す業種には、必ずベテランと素人が存在します。
全員をベテランにするのが、作業標準です。これが存在しない現場には、「工程管理」は存在しません。
- ②在庫管理には、ロケーション管理が前提になります。「実習」でこれを習得します。
- ④原価管理で習得しづらい「チャージ計算」を「実習」で取得します。
- ⑤多品種生産時のBOM構築を「仕様展開技法」で解決する方策を「実習」で取得します。
- ⑥購買・外注・工程の各種リードタイムの設定方法を「実習」で取得します。
- ⑦安全在庫・発注点在庫の設定方法を「実習」で取得します。

儲かる仕組を顧客に提案できます。

- ①生産計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ②購買計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ③製造計画の立案、自動化を事例を通じて取得します。
- ⑤在庫低減・棚卸に合理化を事例を通じて取得します。
- ⑥工程管理で生産性を向上させる技を事例を通じて取得します。
- ⑧品質管理の日程化、合理化を事例を通じて取得します。
- ⑨BOMの百分精度と多品種のBOM構築の技を事例を通じて学ぶ
- ⑩原価管理の革新（原価低減）を事例を通じて取得します。

受講者に「熱意」があれば、「塾」は、どこまでもサポートします。

- ①受講期間中、不明点は「補講」で何度でも学習できます。
- ②修了証書受領者は、「再受講制度」により、無償で何度でも再受講できます。
- ③講師は、BPR構築の熟達者で、「先輩が後輩を育てる」事が塾の目的です。
「話は下手」でも、受講者の「分からない事」には、納得頂けるまでサポートをします。
- ④現実の顧客サポートの課題を「個別相談」で解決できる体制があります。
—700社以上のBPR構築実績があります。そのノウハウを利用ください。
- ⑤再受講制度（無償）を利用され、3回受講されている社長様がいらっしゃいます。何度でも再受講可能です。

B. 10月からの経産省「第4次産業革命スキル習得講座」と同じ内容です



お申込みはこちら

<https://kan-lab.com/contact-jyuku>

または、メール「asguide@kan-lab.com」宛に申込可能です

また、FAXでお申込みの場合は、必要事項をご記入の上、「0798-55-8779」へFAX送信ください。
なお、誠に勝手ながら満席になり次第、申込を締め切らせていただきますので、ぜひお早めにお申し込みください。
申込締切日：6月20日(月)

参加ご希望記入欄	<input type="checkbox"/> 受講する	<input type="checkbox"/> 詳しい説明を聞きたい	
-----------------	-------------------------------	-------------------------------------	--

貴社名(必須)	ふりがな.....		
ご住所(必須)			
TEL(必須)		FAX	
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな.....		
E-Mail(必須)			
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな.....		
E-Mail(必須)			
部署・役職名			
ご芳名(必須)	ふりがな.....		
E-Mail(必須)			

【お客様の個人情報の利用目的】
お客様がご記入頂きました個人情報は、本セミナー資料・受講票の送付および、弊社セミナーのご案内送付以外に使用いたしません。
また、第三者にこれを開示することはありません。
お客様が記載された情報は、(株)管理技術ラボの個人情報保護ポリシー(<http://www.kan-lab.com/policy.html>)に基づき、適切に管理いたします。

同意する

特別講師

細川康秀

社) ABC協会副会長



講師

吉川正一



講師

長町 真由美



講師

八木 達也



塾長

八木 弘泰

中小企業診断士
特種一種情報処理技術者



現日本製鉄の作業長としてライン業務を経て情報システムの大規模開発、1988年以降、中小企業の一括請負システム開発会社、NSA(現IT)会長、NSSOL、日本情報システム・ユーザー協会副会長、現在ABC協会の副会長に從事。

コンピュータ黎明期から今日まで、鋭い洞察力・発想で日本のICT化のリーダーとして情報化に貢献されてきました。

厳しいご指導の中に、塾生を育成する愛情溢れるお話は多くのファンを生んでいます。

40年間、コンサル・SE経験を持ち、製造業を中心に数百家の業務再構築に從事、複雑系の仕組を「科学化」する才能の持ち主。「管理技術で利益の獲得」を担うASGUIDEツール開発の責任者(経産省システムアナリスト)

業務再構築指導は20年間に及び、指導実績も加工業から再生医療企業までの広範囲。厳格的確な指導には定評がある。(ITTVC認定 ファシリテータ)

特許庁登録
「職務分析自動化」
発明者

作業改善をベースとした標準時間の設定、在庫動態分析からのロケーション設定等々の「基準化・標準化」を専門とする管理技術コンサル

特許庁登録
「KJ法図式化」
発明者

50年間、数百家に及ぶ企業の業務再構築指導に從事し、又、企業診断業務は千社を超える実績を持つ。

IT技術+管理技術で利益率5割アップの「新たな利益」の実現を目的に業務再構築指導で活動している。「管理技術の復興・普及」をライフワークとし各地でのセミナーは年間百回に及ぶ。

塾に関するお問合わせ先

「塾」の運用企業



一般社団法人アドバンスト・ビジネス創造協会

TEL: 03-6277-2055 e-mail: sem@abc-a.jp
<http://www.abc-a.jp/privacypolicy.html>



株式会社 **管理技術ラボ**

TEL: 0798-77-2667 FAX: 0798-55-8779
URL: <http://www.kan-lab.com> e-mail: asguide@kan-lab.com

(参考資料) ~教育訓練の目標・修了評価の・基準・受講の利便性~

1. 教育訓練の目標レベル

具体的な到達目標	・現在の生産システムに携わっている技術者（SE等）は間違っ知識のもとに開発が行われているケースが多く、結果的に当初計画したシステムが構築されることは少なく、効果も効率も目標を達成できていないケースが多い。これはシステムの設計・開発者が生産システムの基礎的知識やスキルはもとより、必須技術である「管理技術」を習得できていないことが、その主たる要因と考えられる。この管理技術を習得することで正確で、効率的な生産システムを設計、開発する能力を習得し、既存システムの再構築という業務も担えることを目標にする。 (管理技術をベースにした、分析・設計・定着化・効果測定技術の取得も含む)
習得できるスキル	・生産システムは元来、工学的な理論に導かれて稼働するものである。その基本となる管理工学、生産管理、原価管理、品質管理などの理論と現場で長年培われたノウハウを形式知化したTEXTを軸に、即、役に立つ管理技術を習得できる研修となっている。 さらに、「基準化」「標準化」が、ICT化の前提であるが、これが準備されていない事が、生産システムの失敗の大半になっている。 これら「基準・標準化」例えば、リードタイム、標準時間等々の設定方法及びBOM等のデータ構築の設定方法も取得できる。 生産システムに必要なICT機能も、習得でき、企業の特性に合致したRFPが作成できる。

2. 教育効果の把握方法（修了評価）

到達目標に対する技術・知識の到達度の把握・測定方法	1. 毎回の「事例演習課題」の発表内容の評価 2. 毎回の「理解度テスト」の提出を求め、その「評価」、満点になるまで、再提出を義務としている。 3. 出席確認は、開始・終了時に「写真撮影」 4. 講義中は、「モニタリング担当」「事務局」が、受講者の「表情をモニタリング」し、理解度を推定し、講師に連絡。講師は、該当者に質問等の声掛け。「声掛け」記録での受講態度測定。受講者に注意勧告。（過去に該当者なし） 5. 5分間以上の「離席」は、再受講をして頂く。「モニタリング係」からの指摘。（過去に該当者なし）
修了認定基準に満たない受講者への措置	1. 出席率100%（欠席時は、再受講を求めています。再受講は無償です）。欠席があれば、修了証書の発行はしない。 2. 「理解度テスト」が満点であること。（再提出回数の制限はなく、受講期間を過ぎても満点になれば、修了証は発行する。 3. 毎回の「事例演習課題」の発表が、80点以上の評価であること。
修了認定の判断基準（出席率、修了テスト等の具体的な判定基準）	1. 前述のように、受講期間を過ぎても、「理解度テスト」は、満点になるまで、再提出を求める。 2. 補講制度があり、無制限に補講は、申し込むことが出来る。（定期補講と随時補講がある）修了認定基準まで、補講を継続し、修了して頂いている。 3. 補講制度 定期補講：講習日の前後2時間は、講師が待機し補講希望者に備えている。 随時補講：受講者の希望時間（主に就業時間外）に、できる限り沿うよう、実施している。 補講はすべて無償としている。

3. 受講の利便性

社会人に対する受講のしやすさ（利便性）を高める工夫	・すべての講義はオンライン・ライブ研修で行われる。 コロナ以前からこの方式を採用し、MAX20人以内の受講生に対し、あたかも1対1かのような講義と、受講者同士の対話や演習を交え、知識とスキルの習得を図っている。（zoomを使用） ①受講者は会社や自宅から受講することができる。②社会人の受講をしやすいするため、1週間に1度、午後の半日（4時間）を受講時間とし、14週間が一つの学習チームとなる。 ③講義の録画をオンデマンドで見ることができる。これは復習にも使用できる。 ④前述の「補講制度」の利用が非常に多い。（受講できない場合は、受講者の時間の都合がつく日時で、補講で必ず受講頂く。）
受講者に対するサポート体制	・①質疑は、メールまたは前述「補講制度」が活用されている。 ②「事務局」が、12時間以内に受講生からの、質疑に回答している。 ③「理解度テスト」「演習課題」の成績の悪い方には、「事務局」から、受講者に「補講」に申し込むようガイドしている。 ④受講中は、「モニタリング係」が、常に受講者の「表情」をモニタリングし、表情の曇った方、睡魔に襲われている方には、講師に連絡が入り、講師から該当受講者に声かけをしている。 ⑤受講者は、チャットでも質問でも質問できるが、「質問カード」をカメラに掲げる事で、講義を止め質問が出来る。また、講師から、講義内容の理解度を受講者に講義中にもとめ、受講者は「理解度カード」を提示することになっている。「理解度カード」は、5点法で3点以下の方が一人でもいれば、再度同じ講義を行うルールになっている。

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
1	06/27(月) 14:00 ～17:00	キックオフ 顧客利益に貢献するSE像 (細川先生) DXによる利益の獲得 ーそれを実現する管理技術とはー	「内容」 ①顧客利益に貢献するSE像 ②モノづくり企業におけるDX ③DXによる利益の獲得 ④DXの前提ー管理技術とは？ 「到達目標」 ①DX実現時の利益を理解する ②管理技術がDX推進を支える事を理解する ③ICTと業務知識だけではBPR構築は無理な事を知る。
2	07/04(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (生産計画、資材計画のDX推進)	「内容」 ①「生産計画の業務知識」 ②生産計画の目的・課題 ③管理方式の説明(計画立案・検証方式) ④生産計画DXの成功例と業務フロー (生産計画ー製造計画・購買計画) 「到達目標」 講義/演習を通じて、受講企業ごとの生産計画のDXの 推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する
3	07/11(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (工程管理のDX推進)	「内容」 ①工程管理の「業務知識」 ②工程管理の目的・課題 ③管理方式の説明(作業指導、作業指示 作業標準・標準時間設定の各方式) ④工程管理のDXの成功例と業務フロー (製造計画ー作業指図ー実績ー作業指導) 「到達目標」 講義/演習を通じて、受講企業ごとの工程管理のDXの 推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する
4	07/25(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (購買・外注管理のDX推進)	「内容」 ①購買管理の「業務知識」 ②購買外注管理の目的・課題 ③管理方式の説明 (MRP・OP・製番・カンバンの各方式) ④購買管理のDXの成功例と業務フロー (購買計画ー発注ー納期管理ー受入ー検収ー買掛ー支 払処理) 「到達目標」 講義/演習を通じて、受講企業ごとの購買管理のDXの 推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
5	08/01(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (在庫管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①在庫管理の「業務知識」 ②在庫管理の目的・課題 ③管理方式の説明 (循環棚卸、出庫方式、原材料倉庫とライン倉庫の各方式) ④在庫管理のDXの成功例と業務フロー (出庫指図、ライン倉庫、循環棚卸)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの在庫管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
6	08/08(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (部品表「BOM」管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①部品表管理の「業務知識」 ②部品表管理の目的・課題 ③管理方式の説明 (多様化時代の部品表－仕様展開の技法、E-BOM/M-BOMの連携、BOMの精度維持方式) ④部品表管理のDXの成功例と業務フロー (仕様展開、CAD連携、設変／新旧切り替え)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの部品表管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
7	08/22(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (受注出荷管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①受注出荷管理の「業務知識」 ②受注出荷管理の目的・課題 ③管理方式の説明 (製造依頼と出荷指図、受注引当と出荷指図引当、製品の期間別在庫) ④受注出荷のDX成功例と業務フロー (受注、出荷指図、受注引当と納期回答、生産計画)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの受注出荷管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
8	08/29(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (品質管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①品質管理の「業務知識」 ②品質管理の目的・課題 ③管理方式の説明 (受入・工程・製品検査方式・出荷承認方式・再検査方式・試験検査計画立案、検査有効期限、ライン化) ④品質管理のDX成功例と業務フロー (検査計画、検査依頼・合否判定、再検査計画、検査成績書、トレサビリティ)</p> <p>「到達目標」 講義／演習を通じて、受講企業ごとの品質管理のDXの推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>

[稼げるSE養成講座]カリキュラム

回数	日程	教育名	教育内容
9	09/05(月) 13:00 ～18:00 13:00-14:00は 業務知識の習得 目的のため 自由参加 17:00-18:00は 補講のため 自由参加	DX実現のための、 業務知識と管理技術及びICT技術 (原価管理のDX推進)	<p>「内容」</p> <p>①原価管理の「業務知識」 ②原価管理の目的・課題 ③管理方式の説明 (標準原価計算、実際現計算、 チャージ計算、棚卸評価法、原価差異分析法) ④原価管理のDX成功例と業務フロー (標準/実際原価計算、原価差異分析、 原価シミュレーション、配賦・チャージ計算)</p> <p>「到達目標」 講義/演習を通じて、受講企業ごとの原価管理のDXの 推進と、それを支える管理技術の適応方法を習得する</p>
10	09/12(月) 14:00 ～17:00	生産管理のDX事例 (「生産管理のDX 学習ライブラリ」 (全体) で疑似体験)	<p>「内容」</p> <p>①受注出荷から原価管理までのDXの実際を、「生産管理DX 学習ライブラリ」 (全体) を使用して、マン/マシンフローを理解しながら、実機で演習する。</p> <p>「到達目標」 各单元ごとに学んできた、業務ごとのDXを、業務間の 連携を再認識し、DXの全体イメージを確立する。</p>
11	09/26(月) 14:00 ～17:00	分析・設計・定着化・効果測定技術	<p>「内容」</p> <p>BPR構築の「分析・設計・定着化・効果測定技術」の概要を学ぶ。</p> <p>「到達目標」</p> <p>①現状分析ー基本設計ーRFP作成ー詳細設計ーデータ構築及び定着化技法の概要習得 ②現状分析の内、「個人別職務分析」を、分析ツールを使用して、受講者自身の分析を行い、有用性を実感する。</p>
12	10/03(月) 14:00 ～17:00	継続的なSEの自己啓発の 考え方 (細川先生) 成果発表 ー受講者ごとの「DX計画」の 発表。受講者同士の評価、講評 DX「共通原則」の講義	<p>「内容」</p> <p>①継続的なSEの自己啓発の考え方 ②成果発表 受講者ごとの、成果発表 の実施 ③管理技術の「共通原則」講義</p> <p>「到達目標」 DX実現のためBPR構築を管理技術を駆使して、 どのように社内に広めるか、BPR構築の開発計画を立案 できる。</p>